

# 院長Interview



## 出会いに 支えられた 歯科医師人生

坂詰歯科医院  
埼玉県行田市

### 坂詰和彦氏

Sakatsume Kazuhiko

1951年生まれ。1976年城西歯科大学（現・明海大学）歯学部卒業。歯学博士。明海大学歯学部客員講師。埼玉県歯科医師会社保指導委員。日本口臭学会理事。日本一般臨床医矯正研究会理事。日本生体咬合学術協会評議員。

スタッフ：歯科医師3人、歯科技工士1人、歯科衛生士3人（うち1人栄養士）、助手1人（保育士）、受付（薬剤師）

ユニット：5台

駐車場：10台分

父親と10年診療を共にした後に引き継いだ医院を、2013年8月、目の前に移転。現在は、娘夫婦に継承する時期に差しかかっているという坂詰院長。教科書に縛られない幅広い知見を求めて研修会に参加し、確立してきた診療内容やさまざまな出会いに支えられたという歯科医師人生について聞いた。

### 人とのつながりに恵まれた

——先生は1951年生まれとのことですが、長年、歯科医師を続けてきたから分かったということはありますか。

**坂詰** 歯科業界は狭く、付き合いが長く続きますから、人とのつながりが本当に大切だということです。人との出会いにおいては、よく周囲に「運がいい」と言われます。

——どのような出会いがありましたか。

**坂詰** 私は城西歯科大学（現・明海大学）の1期生卒業時に新設された、当時としては先進的な「口腔一単位で患者さんを診る」総合臨床歯科学講座に助手として入局し、1年間各専科で研修後、学生の臨床実習を担当しました。

先輩のいない講座でしたので、学べないことは、エンドの大谷満・大津晴弘、総義歯の村岡博・阿部晴彦、矯正の島本和則、IDAの保母須弥也の各先生方の研修会や、医科歯科の卒後セミナーなどに、給料の大半が消えました。IDAでは、日本歯科医師会副会長の富野晃先生





診療室は前面導入で、5つに分かれているが、スタッフの動線はシンプル。初診の患者さんは、説明ツールや本が充実しており、チェアの座り心地が良いと評判の1番ユニットへ、2番は歯科衛生士の次女が担当の予防中心ユニット。3番は一般治療、4番は義歯、5番は外科や口臭治療の患者さんと使い分けしているという。



2013年8月に、父親の代からの旧医院の向かいに移転した。

に形成の指導をしていただきました。新卒には高度すぎて理解できないことも少なくありませんでしたが、そうそうたるメンバーの話を身近で聞いたのは、貴重な体験でした。

総合臨床歯科学講座の発想はとても良かったと思うのですが、他の講座がやりにくい面があったようで、在籍して5年でなくなってしまうました。

— その後はどうされたのですか。

**坂詰** 城西歯科大学による日本初の2年制歯科医師臨床研修機関「PDI」が創設されることになり、学内から誰も手を挙げる人がいなかったのと、天の声(?)もあったので、私だけPDIに異動しました。教授は喜んでくれましたね。

講師として日本歯学センターの田北敏行、寺川国秀、内藤正裕、山崎長郎、本多正明の各先生方が就任していました。当時はビッグな先生とは知らずに、楽しく診療助手をしながら勉強させていただきました。後で振り返っても、とても有意義な時間でした。

— 著名な先生方とのご縁が多かったの



ですね。

**坂詰** そうですね。東京歯科大学の法歯学の鈴木和男教授が講義で坂戸まで来ていたので、先生の帰りは自宅までお送りする運転手を3年ほど務めました。車の中で、さまざまなお話を伺えましたし、学長室まで迎えに行くので、そこでも学長と鈴木先生との難しそうな話を耳にする機会がありました。こういった経験から、同級生と話しているだけでは身に付かないような、大局的のものを見る目が養われたように思います。

5年ほど大学に残り、PDIは東京だったため、給料をもらいながら見学などをして過ごすことが多く、PDI創設に当たり各講座の有給定員を削減したこともあって、同級生からは「ペーパーボードクター」「月給ドロボー」とからかわれましたが……。

——人付き合いで気をつけている点は。

**坂詰** 一人の人の言うことを絶対視しないことだと思います。さまざまな視点で学べたことが、私にとっては幸いだったと思っています。

## 幅広い研修会で学ぶ

——先生は、さまざまな分野の講習会に参加しているそうですね。

**坂詰** いわゆる教科書的でない考えも、最初から否定せずに、幅広い分野の研修会に顔を出しています。学術費が高すぎるため、税務署に疑われたことがあったほど、研修にはお金をかけています。

——教科書的でない考えを否定しないという発想はいつごろからですか。

**坂詰** 学生のころ、国内で初めて鍼麻酔で抜歯をした片山伊九右衛門先生の講座に顔を出し、研究会の手伝いもしていました。そこで麻酔なしの抜歯を目にした経験が、一番大きかったかもしれません。——先生も鍼麻酔で治療をしているのですか。

**坂詰** 鍼は使っていませんが、極力麻酔の使用を減らすため『エイクレス』という器械を使っています。切削時の振動を抑えるため、痛みがかなり軽減します。

臨床応用の幅を広げてくれた、私にとっては心強い存在です。妻からは、「粗



天井が高く開放感がある待合室と、待合室にあるキッズスペース。





切削時の熱や力による組織の損傷、加圧時の揺れによる痛みを軽減できる『エイケレス』。開発者の宇都宮大学・隈部淳一郎教授は、不感性振動切削理論により、公益財団法人大河内記念会の大河内記念技術賞を受賞。『エイケレス』は、医療に応用したもの。



コミュニケーションツールは、全て歯科衛生士の次女が作成。

「大ごみにならなかつた、唯一の器械だね」と認めてもらっているものです(笑)。  
——診療メニューの中に口臭治療がありますね。

**坂詰** ほんだ式口臭治療の提携クリニックになつていきます。関東ブロックの責任者を務めていた時期もあり、現在は日本口臭学会の理事です。

——口臭治療では、一般の診療とは異なる配慮が求められると思いますが。

**坂詰** 口臭治療目的の来院者は、専門

家顔負けの幅広い情報を集めていることが少なくないため、専門家である私の方がより情報を持っていなければ、信頼を得ることはできません。そのため、口臭治療に関する一般書や関連のホームページに何が書かれているかチェックしていただき、「知識が豊富だ」と感じてもらうことが大切です。

口臭治療では、精神的に参っている患者さんが多く、測定値では問題がないこともあるので、問診がとても大切です。

優しいだけでは務まりません。

**自分のペースを押し付けられないように…**

——診療のリスク管理で心がけていることは。

**坂詰** こちらのペースを押し付けるのではなく、待つということなんです。

患者さんの主訴とこちらの判断が違っていたら、とりあえず手をつけません。例えば患者さんの話から歯根破折が予測



されても、レントゲンに写っていないければ様子を見ます。せっかく来てくれたのだから、何かしら治療してあげよう……というのがトラブルの元なのです。提携病院の歯科医長が後輩なので、紹介して意見を求めることも少なくありません。

慢性的な頭痛や肩凝りに悩んでいたり、精神疲労状態にある患者さんには、『オーラルテクター』を使って口腔内のガルーバニー電流を測定することもありますが、その際、電流量が多く口腔内金属の問題が疑われても無理に金属を外さず、「外したら楽になるかもしれないですね」とアドバイスするにとどめています。

歯周疾患の患者さんには、「ちゃんと寝られていますか?」「ごはんは食べてますか?」「歯ぎしりはしてませんか?」「砂糖を取りすぎてませんか?」といった生活習慣も含めた問診を行い、免疫力の話をすることもあります。

## 家族で支え合う医院

—— 歯科医師やスタッフの役割分担は。

坂詰 双子の娘のうち、長女が歯科医師



## 高齢者への配慮

上左/受付の椅子はキャスター付で、足が不自由な高齢者を座ったままチェアまで運ぶことができる(カリモク『Chitano』)。

上右/診療室の扉は引き戸になっている。「旧医院で、高齢者が扉を開けるのが大変そうだったので引き戸にした」とのこと。

下/高齢者は足を伸ばすのがつらい人が多いので、足折れタイプのチェアを選択。



で、結婚相手も歯科医師なので、1年半前から一緒に診療し、徐々に継承を進めているところです。彼は歯周外科、私は歯周内科、娘は予防や矯正……と、大まかに治療計画を立てています。

今までは歯周内科がメインだったの

が、歯周外科も加わったことで、医院全体の信頼感が高まったと感じています。

私は口腔内の菌のコントロールや生活習慣の見直しと歯周基本治療を重視し、それでも改善しない人には歯周外科のお話をしていくのが望ましいと考えていま





す。

パトタッチを意識してから、患者層にも変化が出てきました。今までも長く診てきた患者さんが親になって子どもを連れてくるということはありましたが、新患で小さい子どもが来るようになったのは、最近の傾向です。

保育士の資格を持っているスタッフも

いて、子どもとの関わり方ではレベルが違おうと実感する場面がたくさんあり、助かっています。

また、栄養士の資格を持つ次女と、教員資格を持っている姪っ子も、ともに歯科衛生士として勤務してくれています。

——ご家族が多いと、スタッフ確保の面で心強いでしょうね。

**坂詰** そうですね。受付は、薬剤師・臨床検査技師の資格を持っている妻が務めています。患者さんの家族構成や診療の流れを把握して配慮してくれているので、本当に心強いです。

高齢の患者さんの薬についての相談にも乗ってあげられますし、健康相談をしていく患者さんも少なくありません。

当院のスタッフは、それぞれが優れている面を持っており、それがお互いの信頼関係につながっていると思います。

### 若手へのメッセージ

——先生は、埼玉県歯科医師会の役員もされているそうですが。

**坂詰** 社保の指導員になって5、6年に

なります。埼玉県は近年、会員の指導対策が充実しており、他県に自慢できるサポートができています。

指導に呼ばれても、不正をしていなければ怖いことはありません。ただ、会と距離を置いている会員のサポートでは、「会に顔を出していれば分かることだったのに……」ともどかしく感じることもあります。

——今後の展望は。

**坂詰** 私の家系は10代続いている町医者ですが、患者さんに家族のように寄り添う歯科医療をしていた父や母のような姿を目指しています。

今まで講習会で学んだ時の資料や、研修会のDVD、自分でまとめた治療の注意点のデータなどを、子どもたちに引き継ぎたいと思って整理して置いてあるのですが、なかなか見てもらえないのが寂しいですね(笑)。

若手へのメッセージとしては、「自分が教わった先生の考えが全て」と考えるのではなく、大勢の仲間と触れ合い、知見を深めてほしいと思います。